

学生図書委員だより

二〇〇八・十一・発行

編集・学生図書委員

No.2

足跡塾 第二回 恩田陸の巻

足跡塾第二回は、ノスタルジーの魔術師、恩田陸です。とはいえ稀代の読書家である彼女の足跡をたどるとなると、活字の海でおぼれてしまいます。そんなわけで、今回は彼女がデビュー作を書ききつかけとなった作家・酒見賢一をご紹介します。

酒見氏は主に中国史から題材を取ることが多いですが、それに囚われない自由で斬新な発想が特徴です。中国モノというと重厚・白熱・忠義というような古臭いイメージが一般的かな？ しかし酒見賢一は一味違うのですよ。彼の書く世界は淡泊にして軽快、どこことなくを喰つてくるくせにユーモアがあつて、生臭さが全然ありません。まずは恩田陸が驚いたという『後宮小説』からどうぞ。この作品はアニメにもなっています。

他に恩田陸に似てる作家というと、あえて言うなら奥泉光や津原泰水かなあ。ただし恩田陸も含めて、今回名前を挙げた作家は、登場人物よりもむしろ、物語そのものが主人公というような話を書く人ばかりです。安易に感動を求めるより、物語のパワーに身をゆだねる楽しみを味わってみてくださいね。

え？ 恩田陸だから学園モノを期待してたのに、つて？ なあんだ、それなら一昔前の少女マンガを読めばご期待通りですよ。まずは萩尾望都からどうぞ。

大つかみ出版社マップ 講談社

今年百周年を迎える講談社。それにちなんで、講談社から人気作家の書き下ろし単行本が、なんと百冊も刊行されるそうです（！）。凄い企画ですね。

講談社といえばミステリーの人気シリーズが軒を連ねています。他にも、児童文学や隠れた名作にも強いオールマイティな出版社です。ただ、ミステリー以外の海外作品にはやや弱いかも？

ちょっとしたお得情報としては、文庫の文字の大きさが挙げられます。実は講談社文庫の文字組みって、他社の文庫に比べてかなり大きいのです。古い文庫はそれでもありませんが、最近出版された文庫なら違いは一目瞭然。一度見比べてみてはどうでしょう？



make
your
curiosity

特集 海外文学って面白いの？ 入門編

亀山郁夫・訳の『カラマゾフの兄弟』が百万部を突破したのは日本出版界の「事件」ですが、一体誰が買っているんでしょう？ 皆さん、海外文学って読みます？ そもそも、海外文学って面白いのかな？

お答えしましょう。海外映画って面白いですよ。じゃあ、簡単です。海外文学も面白いんです！ とはいえ、いきなり『カラマゾフ』を読むのは無理というものが、物事には順序があります。王道ですが、ここはO・ヘンリーから入ってみてはいかがでしょう。起伏の

ある展開にひとふりのロマンス、あるいは皮肉、そして物語が見事に収束していくラスト。まさに絶妙の匙加減といえましょう。または、あつと驚くオチをスマートに書くヘンリー・スレッサーもいいですよ。どちらも読みやすくキレイのいい文章を書く、とっつきやすい短編作家です。

それでも難しそう…というなら、裏ワザをお教えます。それはスバリ、児童文学です。子ども用に書かれているから、言葉も易しいし、筋もややこしくありません。主人公が男の子なら、『飛ぶ教室』（ケストナー）、『宝島』（ステイプソン）、女の子なら『若草物語』（オールコッ

ト）『秘密の花園』（バーネット）あたりから読んでみてください。今さら子どもの本は恥ずかしい、というアナタも心配ご無用。優れた児童文学はちゃんと文庫になっています。しかも装丁もなかなかお洒落なものが多く、一度手に取ってみる価値アリです。

今月の一首

ミントガム切符のやうに渡されて
手の暗がりに握るぎんいろ

澤村斉美

きみがくれたこの一枚。くしゃくしゃにならないように、そっとポケットにしまったのは、秘密です。